都島区将来ビジョン2030（素案）

～みんなで未来をひらくまち～

安全・安心のまち
人がつながり・いきいきと暮らせるまち
子どもが輝くまち
明日に誇れるまち
の実現にむけて

写真は差替予定

2025年9月　都島区役所

目次

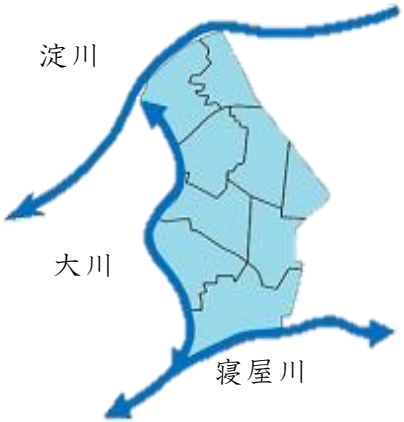
都島区将来ビジョン2030について ・・・・ 1

都島区の概要 ・・・・ 3

区政の基本理念 ・・・・ 11

めざすべき将来像と取組の方向性 ・・・・ 13

区将来ビジョン2030の実現にむけて ・・・・ 24



三方を川に囲まれた都島区

都島区将来ビジョン2030について

「都島区将来ビジョン2030」は、これまでに策定したビジョンを踏まえ、それらの施策をさらに前進させるため、令和8（2026）年度から5年後のめざすべき将来像と取組の方向性についてまとめたものです。

今後、このビジョンに沿って、「安全・安心のまち、人がつながり・いきいきと暮らせるまち、子どもが輝くまち、明日に誇れるまち」の実現にむけて、区民の皆様とともに、区役所職員一丸となって取り組んでまいります。皆様方のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

都島区長 藤岡慶子

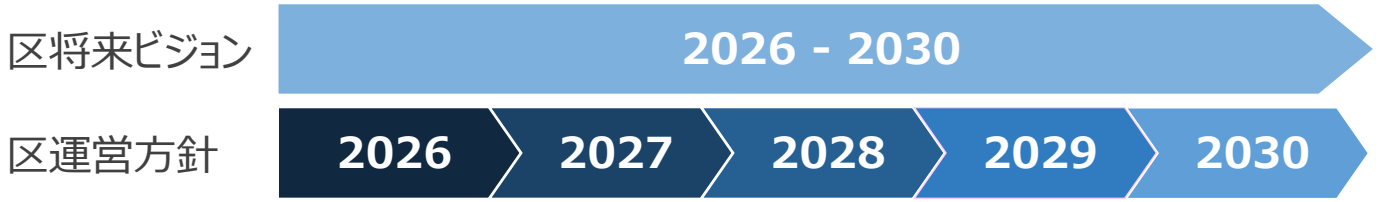
都島区将来ビジョン2030について

区将来ビジョンとは

区長が区内の基礎自治行政を総合的に推進していく上で、地域としての区のめざすべき将来像、その実現に向けた施策展開の方向性などをとりまとめ、区民の皆様に明らかにするものです。

区将来ビジョン2030の計画期間

概ね5年とし、令和8（2026）年度から令和12（2030）年度末までの、施策展開の方向性などをお示ししています。



区将来ビジョンの単年度のアクションプランとして、区運営方針を毎年度策定します。

都島区では＜ニア・イズ・ベター＞の考えのもと、地域福祉を推進するための中心的な計画として「都島区地域福祉ビジョン」を令和7（2025）年に策定していますが、区将来ビジョンはこれらの計画・プランと相互に補完するものです。

また、将来ビジョン2030の別冊として、まちの長期的な変化に対応し、より戦略的に新たな都市イメージやまちの魅力創出、育成、醸成等につながる施策・事業に多面的に取り組み、長期的な視点での区の将来像を示す「まちづくりビジョン2040」を策定。

都島区の概要

最新データを反映して策定予定

区の創設

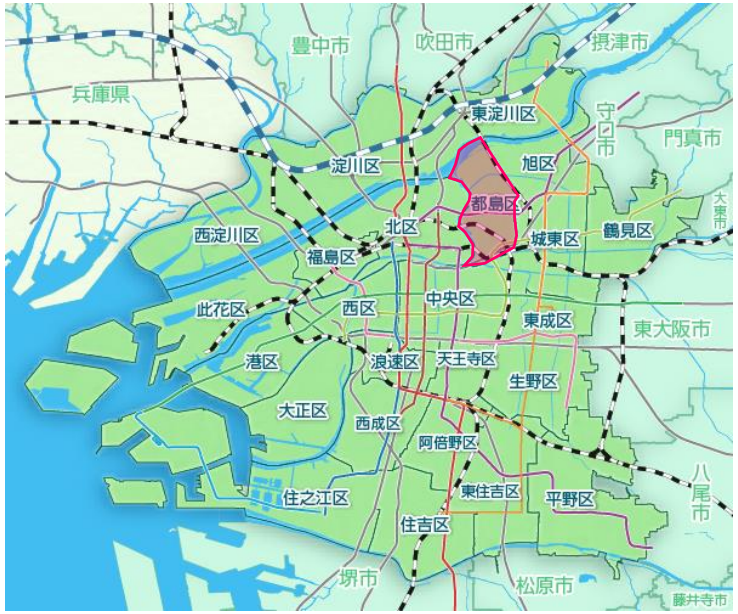
昭和18（1943）年4月1日

位置と地形

都島区は、東経135度31分、北緯34度41分（区役所所在地）で、大阪市の北東部に位置します。地形は平坦で平均標高5m、最高地点は淀川堤の13mです。

区の面積は6.08㎢で大阪市全体（225.34㎢）の2.7%を占めます。（国土地理院発表2025年4月）

西側は大川に沿って南北に長く、北側は淀川、南側は寝屋川が区境界になっており、隣接している区は「北区」「中央区」「城東区」「旭区」「東淀川区」です。



都島区の概要

歴史

昭和18（1943）年4月1日、北区及び旭区から分離・再編して発足しました。

室町～安土桃山時代には、南部の京橋周辺は京街道と古堤街道の分岐点周辺にあたり、交通の要衝として栄え、江戸時代に入ると現在の都島通以北の地域が都市近郊の農村地帯として開墾されました。

明治時代以降は、大阪の急速な発展によって次第に農村地域から住宅地・工業地・商業地の混在した市街地に変貌を遂げ、大阪市北部有数の産業地区となりました。

戦後、繊維業や軽工業を中心に発展しましたが、昭和40（1965）年頃から社会問題化した公害対策等のため、工場は相次いで地方へ移転し、その広大な跡地は大規模住宅群に姿を変えています。

都島区の概要

北部

かつて紡績等の大工場が立地し、工業地域として繁栄しましたが、昭和40年代後半、大工場が郊外へ移転、その跡地などに公営・民営による大規模高層住宅群が建設され、生活関連施設も整備されたまちに生まれかわっています。また、JR おおさか東線の開通と城北公園通駅の開業（平成31（2019）年3月）により、交通の利便性が飛躍的に向上しています。

中部から南部

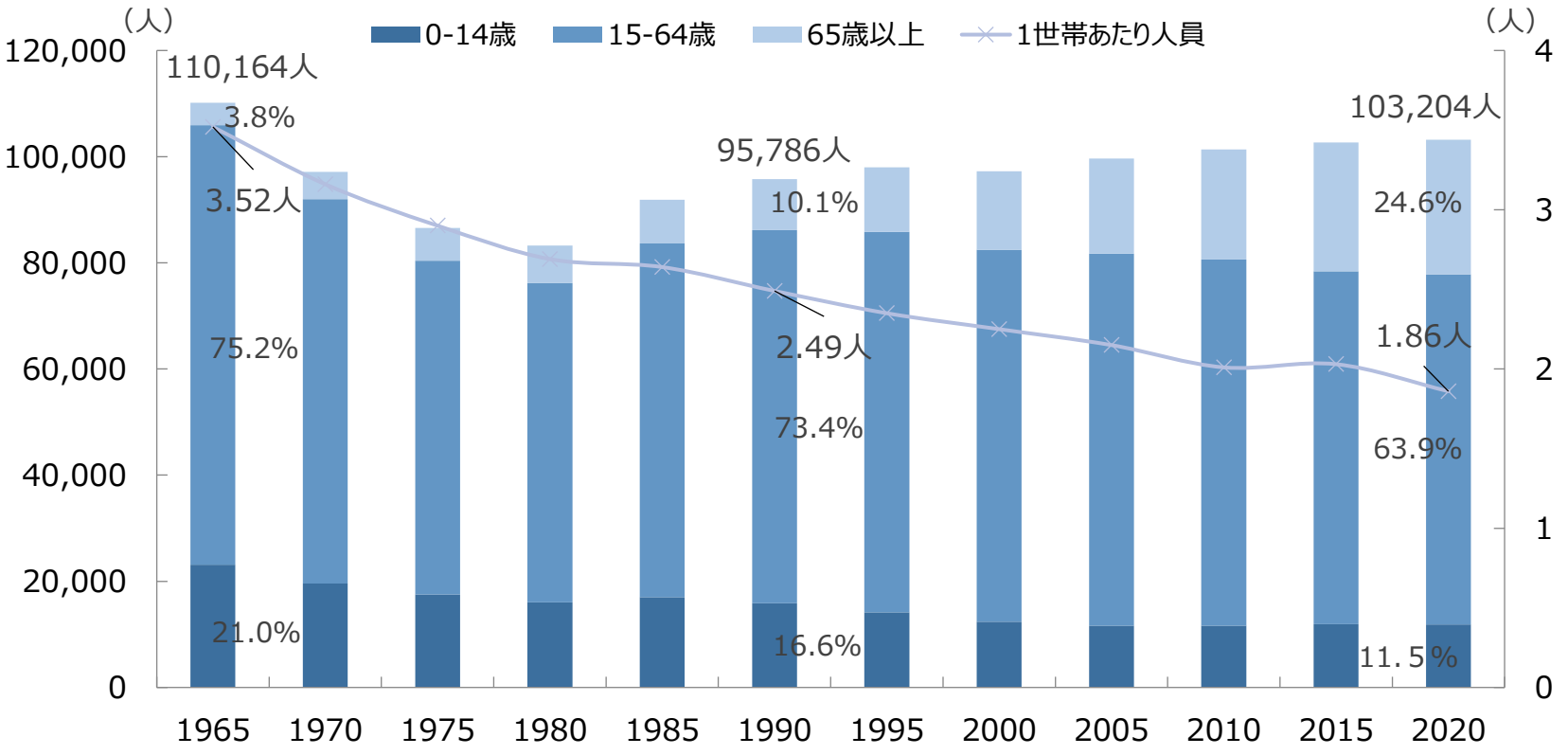
交通至便かつ、居住環境もすぐれた地域です。特に、市電都島車庫跡地及び旧国鉄淀川貨物駅跡地については、総合的な開発が進められた結果、職住近接の快適な都市型住宅や市立総合医療センターなどの施設、毛馬桜之宮公園などが立地し、水とみどりに恵まれた景観と立地条件を活かした都市居住の魅力にあふれるまちが誕生しています。

京橋地区

JR 環状線、JR 学研都市線、JR 東西線、京阪本線及び大阪メトロ長堀鶴見緑地線の鉄道3駅・４路線が乗り入れる大阪市東部を代表する交通要衝の地、「大阪東の玄関口」として賑わいを見せています。また、大阪都心部最大級のみどりがあり、国際間拠点である大阪城公園やOBP（大阪ビジネスパーク）と隣接し、観光・業務・商業施設が集積した地域です。

都島区の概要　人口の推移

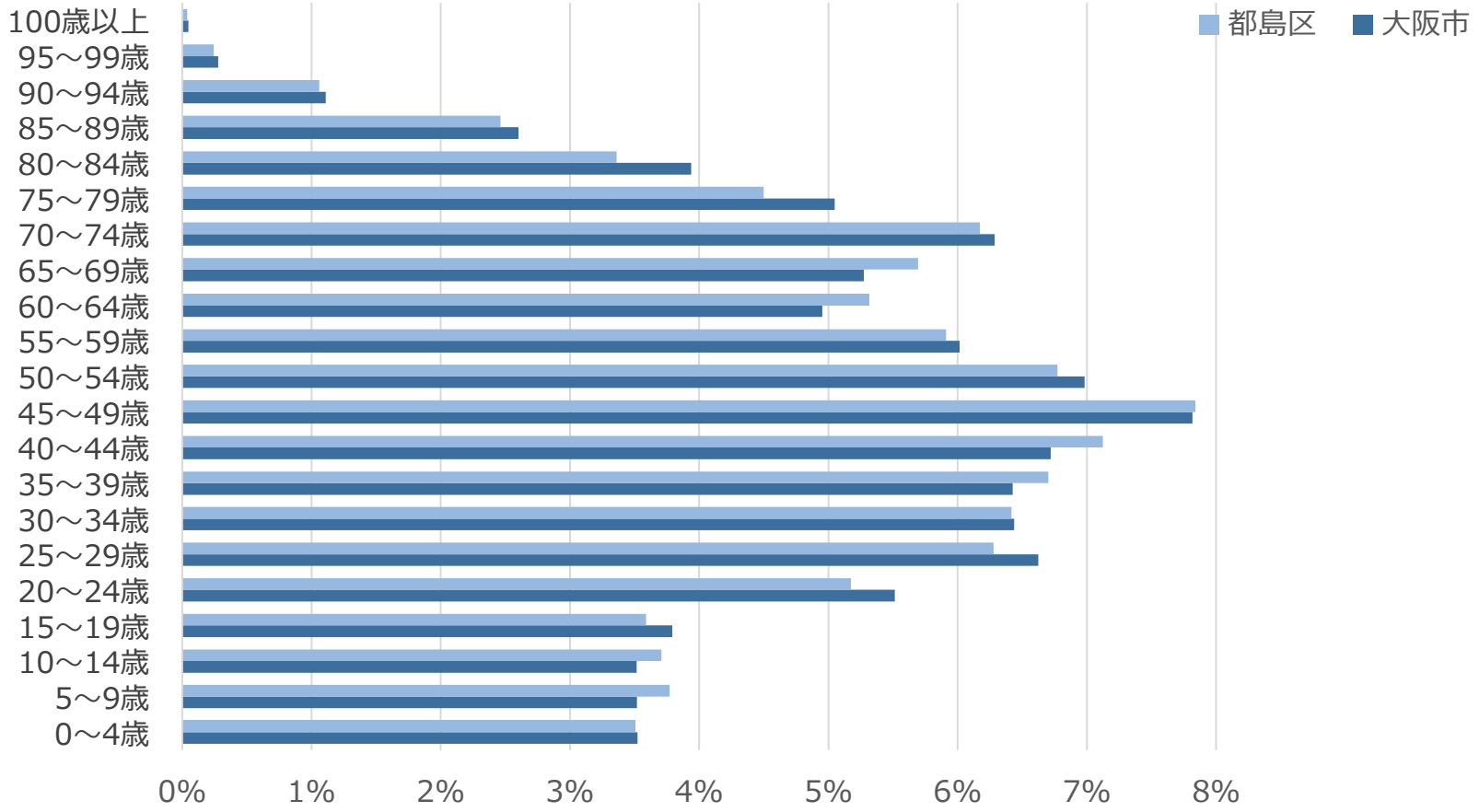
各年「国勢調査」による



都島区の人口は昭和60（1985）年頃から、緩やかな増加に転じる一方、世帯あたり人員は減少傾向にあります。また、65歳以上人口の占める割合は、昭和40（1965）年の約4%から約25%へと増加傾向にあります。

都島区の概要　人口構成の割合

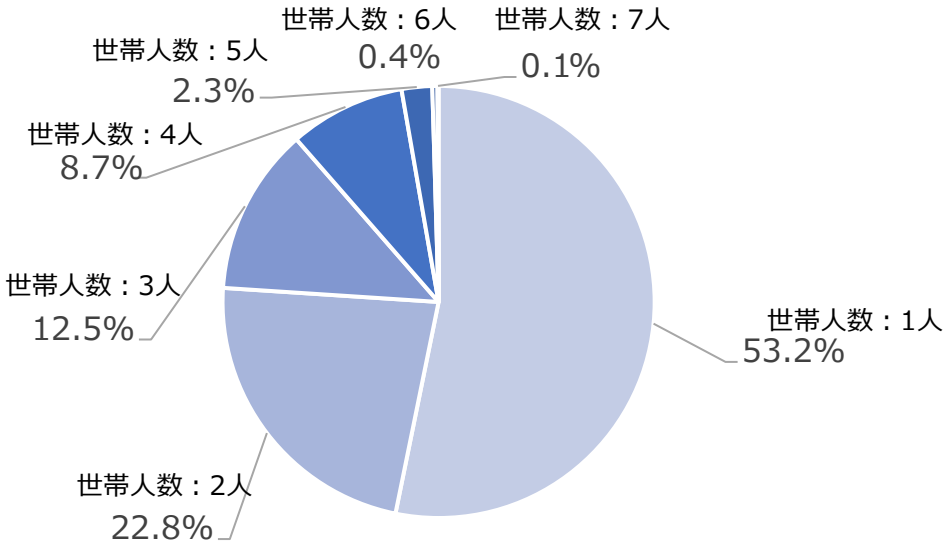
（資料）総務省「国勢調査」 令和２（2020）年国勢調査 人口等基本集計（大阪市） 統計表



都島区の人口構成の割合は、大阪市全体と比べ、５～14歳、35～44歳、60～69歳の年代で若干高くなっている。

都島区の概要　世帯構成

世帯人員	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人以上	合計
世帯数	30,272	12,994	7,128	4,939	1,300	217	49	56,899
世帯構成の割合	53.2%	22.8%	12.5%	8.7%	2.3%	0.4%	0.1%	100%

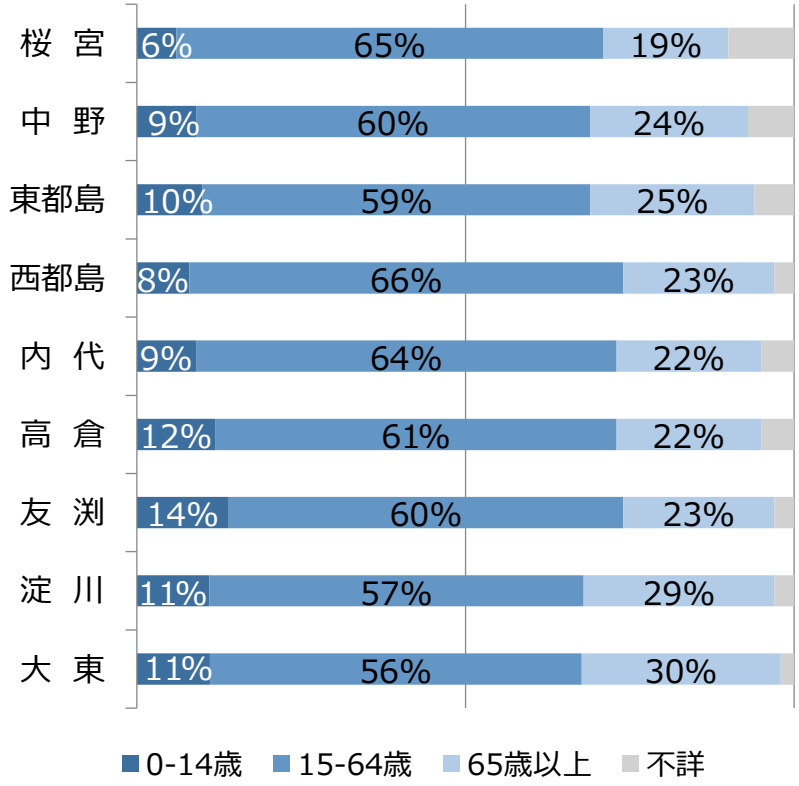


（資料）総務省「国勢調査」
令和２（2020）年国勢調査 人口等基本集計（大阪市） 統計表

都島区の全世帯数のうち53.2%が単身世帯となっています（大阪市53.6%）。

都島区の概要　各地域の年齢比率

令和2（2020）年 国勢調査「小学校区別年齢比率」



友渕、高倉地域では0-14歳が占める割合が比較的多く、大東、淀川地域では65歳以上が占める割合が比較的多くなっています。

都島区の概要　その他

最新データを反映して策定予定

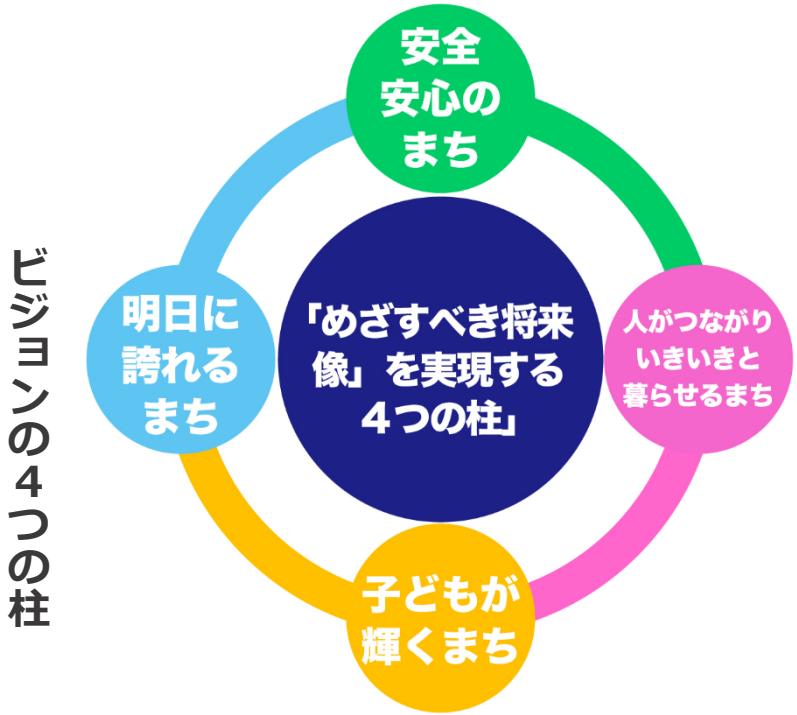
	都島区	大阪市	（出典）
面積	6.08 ㎢	225.34 ㎢	国土地理院 2025.4
人口	110,176 人	2,813,799 人	2025.8　推計人口
世帯数	61,705 世帯	1,592,446 世帯	〃
1世帯あたりの人員	1.86 人	1.84 人	2020 国勢調査
人口密度	17,747 /㎢	12,216 人/㎢	2020 国勢調査
外国人比率	4.5 %	6.9 %	2025.3住民基本台帳登録
持ち家率	45.5 %	42.1 %	2020 国勢調査
人口1人あたりの公園面積	2.66 ㎡	2.98 ㎡	2025 大阪市都市公園一覧表
事業所数	4,723 ヵ所	177,944 ヵ所	2021 経済ｾﾝｻｽ活動調査
従業者数	47,307 人	2,342,068 人	〃

※　その他の詳細な統計については、人口・世帯数、コミュニティ、保健・福祉などのデータをとりまとめた「みやこじまレポート2023(資料編)」をご覧ください。

区政の基本理念　～みんなで未来をひらくまち～

「安全・安心のまち、人がつながり・いきいきと暮らせるまち、子どもが輝くまち、明日に誇れるまち」の実現

都島区将来ビジョン2030では、めざす将来の姿として「安全・安心のまち、人がつながり・いきいきと暮らせるまち、子どもが輝くまち、明日に誇れるまちの実現」を掲げています。ビジョンの４つの柱がそれぞれにリンクし、相互に補完し合いながら、持続可能なまちづくりを進めていきます。



ビジョンの４つの柱

- 1-1 防災のまちづくり
- 1-2 防犯のまちづくり
- 1-3 安全で美しいまちづくり

- 2-1 コミュニティ豊かなまちづくり
- 2-2 いきいきと健康に暮らせる福祉のまちづくり

- 3-1 安心して子育てできるまちづくり
- 3-2 未来社会を担う人材育成

- 4-1 にぎわいと魅力あるまちづくり
- 4-2 区の魅力創出

都島区将来ビジョン2030にかかる取組はSDGsの理念に基づいています

都島区将来ビジョン2030にかかる取組はSDGsの理念に基づいています。
2030年までを目途とする持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けて、区の施策にSDGsの理念を取り入れるとともに、各局のSDGs関連施策とも連携して取組を進めています。

区民の皆様、地域団体、企業、関係機関と連携しながら取り組むことで、都島区全体でSDGsの浸透を図り、未来に向けて持続可能な社会の実現をめざします。

【取組事例】
大阪市では環境の保全と循環型社会の構築に向けて積極的に活動しており、都島区では、新たなペットボトル回収・リサイクルシステムの一環として、地域と連携してペットボトルの回収に取組むとともに、関係機関と連携して食品ロス対策（フードドライブ等）及び３Ｒの推進（※）に向けた普及啓発活動を行っています。
これらの取組は、SDGsの目標12「つくる責任、つかう責任」や目標14「海の豊かさを守ろう」に資するものです。
このような取組を通じて、地域社会における資源循環を促進し、持続可能な社会の実現をめざします。
※３Ｒ は Reduce（リデュース）、Reuse（リユース）、Recycle（リサイクル）の３つのＲの総称です

めざすべき将来像

1．安全・安心のまち

1-1 全区民が災害の備えをし、助け合って避難行動できる状態。

1-2 全区民が防犯を意識し、犯罪を抑止する環境が整っている状態。

1-3 ごみのポイ捨てや放置自転車が減少し、環境に優しく、誰もが安全に通行ができる状態。

地域防災訓練

2．人がつながり・いきいきと暮らせるまち

2-1 これまで培われてきた人と人との「つながり」や「きずな」を礎にしながら、新たな生活様式を踏まえつつ、あらゆる世代が生涯学習や地域活動への参加・参画による「まなび」を通してつながりを育成し、持続的に地域コミュニティが活性している状態。

2-2 地域に福祉の身近な相談窓口があり、地域住民がお互いに見守り活動を行うことにより、安心して生活できる状態。また、区民がいきいきと健康で生活することができる状態。

区民まつり

めざすべき将来像

3．子どもが輝くまち

3-1 授乳や育児について相談しやすい環境が整い、育児不安が解消され、いきいきと健康に暮らせる状態。子どもや子育て世帯がライフステージに応じた支援を受けることで、子どもの笑顔が輝き、子育てに伴う喜びが実感できる状態。

3-2 経済状況や家庭環境に左右されることなく、すべての子どもが将来の夢や目標をもち、未来社会を担う人材が育成される状態。

プレワーキングマザー対象出産直前講座

4．明日に誇れるまち

4-1 三方を川に囲まれた都島区の恵まれた自然環境、立地、歴史・文化、産業などの特色を活かした地域の活性化が図られ、まちのにぎわいと魅力が高まり、区民が誇りを持ち、住み続けたいと思うとともに、多くの人々が訪れたい、住みたいと思う状態。

4-2 さまざまな媒体を通して、暮らしに関する情報や都島区の魅力を発信し、区内外に届けることで区民や来街者等が関心を持ち、都市イメージの向上が図られている状態。

インスタグラムによる魅力情報発信

1　安全・安心のまち

1-1 防災のまちづくり

現状・課題

災害への備えとして個人・家族での取組（自助）は比較的進んでいるものの、地域の助け合い（共助）の構築を進めていく必要がある。

めざす状態

災害時において、多くの区民が隣近所や地域住民による支えあいがある状態。

取組の方向性

出前講座や広報誌、SNS等の様々な媒体での情報発信を通じて区民の自助・共助のさらなる意識の向上に取り組む。
また、地域の防災訓練の支援や、人材を含めた地域資源を活用し、地域の防災力の向上に取り組む。

「共助」を目的とした地域の防災訓練（研修など）の参加者数

避難所開設運営訓練

1　安全・安心のまち

1-2 防犯のまちづくり

現状・課題

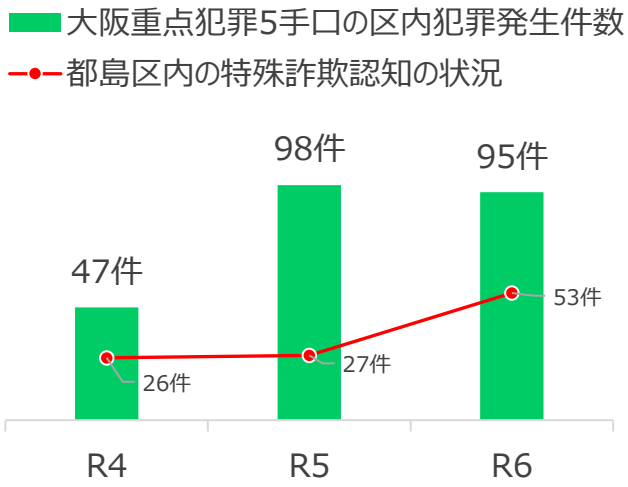
警察や地域と連携した啓発等に取り組んでいるが、大阪重点犯罪5手口※及び特殊詐欺の被害件数は増加傾向にある。
※ひったくり、路上強盗、自動車盗、車上ねらい、部品ねらい

めざす状態

防犯を意識し、犯罪を抑止する環境が整っている状態。

取組の方向性

区民の防犯・交通安全意識の向上を図るため、青色防犯パトロール車による巡回や学校園等を対象にした出前講座を積極的に実施する。また、区内に防犯カメラを設置することで犯罪を抑止する環境を整備する。広報誌、SNSなど様々な媒体を活用し幅広い年齢層に対して情報発信を実施する。



地域安全防犯チームによる出前講座

1　安全・安心のまち

1-3 安全で美しいまちづくり

現状・課題

ごみのポイ捨てや放置自転車、違法な客引き行為、路上喫煙等により、区民・来街者が不快感を抱いている。

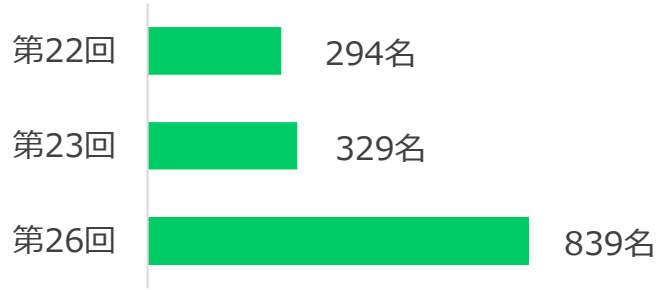
めざす状態

環境美化の意識が向上し、ごみのポイ捨てや放置自転車が減少し、環境に優しく、だれもが安全に通行できる状態。

取組の方向性

放置自転車や違法な客引行為の防止のほか、ごみのポイ捨て防止や喫煙マナーの向上に向けて啓発活動を実施する。また、区民・来街者の環境美化意識の向上を図るため、広報誌やSNSなど様々な広報媒体を活用した情報発信や市民協働による清掃活動を推進する。

都島クリーン作戦に参加した人数



(第24、25回は中止)

都島クリーン作戦（高倉地域）

2　人がつながり・いきいきと暮らせるまち

2-1 コミュニティ豊かなまちづくり

現状・課題

個人の生活様式や価値観の多様化などにより、人と人とのつながりの希薄化が進むとともに、地域活動の担い手不足やライフスタイルの変化などにより地域活動への参加意識が低下している。

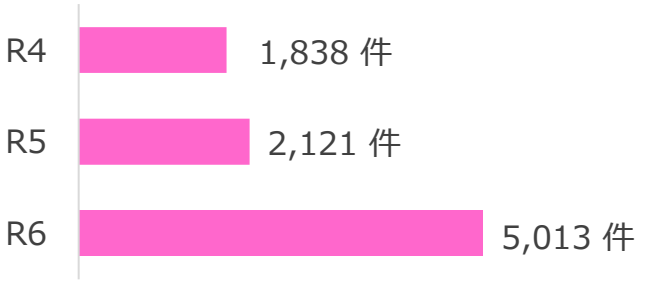
めざす状態

新たな生活様式を踏まえつつ地域特性に即した地域コミュニティづくりなど、より多くの住民参加による自律的な地域運営が進められている状態。

取組の方向性

生活様式や地域特性に即したきめ細やかな支援を行い、あらゆる世代の地域活動参加を促進する。また、生涯学習や地域活動への参加・参画による「まなび」を通して、「つながり」を育成し、自律的な地域運営を推進する。

区ホームページの「地域※の交流や活動」を紹介するコンテンツ閲覧者数



※地域…区民や地域活動協議会をはじめとする地域活動団体

地域のまつり

2　人がつながり・いきいきと暮らせるまち

2-2 いきいきと健康に暮らせる福祉のまちづくり

現状・課題

地域コミュニティの希薄化や社会的孤立を背景に、福祉課題の「複雑化・多様化・深刻化」が進み、支援につながらず、地域で埋もれている要援護者に対する支援の必要性が大きくなってきている。

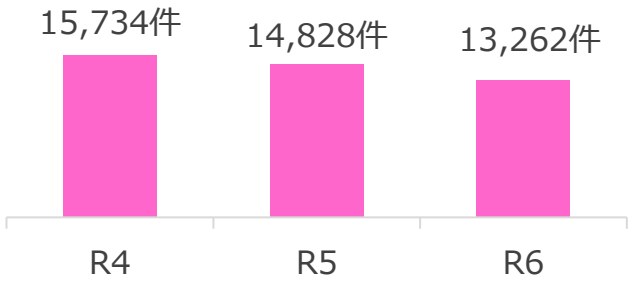
めざす状態

地域に福祉の身近な相談窓口があり、地域において見守り活動が効果的に行われ、安心して生活ができると感じられる状態。

取組の方向性

各地域の福祉会館等に地域福祉コーディネーターを配置し、地域住民からさまざまな相談に応じるとともに、相談内容に応じ、適切に関係機関につなぐ。
見守り活動のコーディネートを行い、見守り活動が自主的かつ円滑に進むよう、支援体制を整備する。

地域福祉コーディネーターによる、電話・訪問・来所での見守り活動件数



福祉コーディネーターによる相談

3　子どもが輝くまち

3-1 安心して子育てできるまちづくり

現状・課題

子育ての負担感や子どもの成長発達における不安を保護者だけで抱える傾向にあり、社会全体に頼るという意識が定着していない。
また、コミュニティが変化し、出産・育児の手技等に関して相談できる者が周囲に少ない。

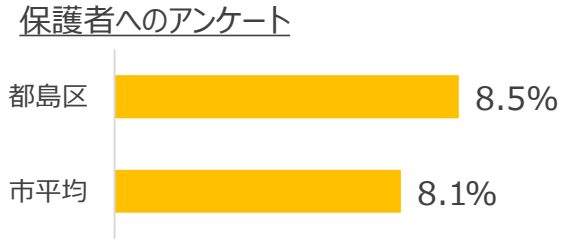
めざす状態

子育て世帯が孤立することのないよう、切れ目ない支援が提供される状態。
授乳や育児等に関する不安が軽減され、親子の絆が育まれるとともに子どもの安らかな成長・発達が促進される状態。

取組の方向性

子育てに不安を持つ保護者等が気軽に相談できるよう、対面での相談に加え、SNS等を活用した子育て支援に関する情報発信を推進する。
共働き・共育てなど様々なライフスタイルに応じた支援体制や、身近な授乳や子育ての相談体制を推進する。

子どもとの関わりについて、
適切な助言をしてくれる人がいない割合



「子どもの生活に関する実態調査」（5年度実施）

子育て座談会「ベトナムの会」

3　子どもが輝くまち

3-2 未来社会を担う人材育成

現状・課題

子どもを支える人や場が不足しており、将来の夢や目標を持つことのできるような、学びや遊びを通じた子どもの成長の機会が失われている。

めざす状態

すべての子どもが、学びや遊び等の経験を通して「生きる力」を身に付け、将来の夢や目標をもち、未来社会を担う人材が育成される状態。

取組の方向性

子どもがさまざまな経験を通して明るく健やかに成長し、将来の夢や目標を持つことができるよう、学力・体力の向上支援や教育環境の整備等を行う。また、子どもを支える環境を充実させることで、子どもの成長の機会を確保する。

みやこ塾参加前より学校の授業が理解できるようになったと回答した割合

※みやこ塾アンケートにおいて「十分理解できている」「理解できている」と回答した区内中学生の割合

4　明日に誇れるまち

4-1 にぎわいと魅力あるまちづくり

現状・課題

三方を川に囲まれた都島区が持つ恵まれた自然環境や、歴史文化といった高いポテンシャルを生かして、区内外に向けたさらなる魅力創出・発信の取組が必要である。

めざす状態

三方を川に囲まれた都島区の恵まれた自然環境、立地、歴史・文化、産業などの特色を生かした地域の活性化が図られ、まちのにぎわいと魅力が高まり、区民が誇りを持ち、住み続けたいと思うとともに、多くの人々が訪れたい、住みたいと思う状態。

取組の方向性

関係機関と連携・協働したイベント等により、水辺のまちづくりや区の魅力、歴史・文化資源、産業を活かした地域の活性化を図る。
3つのエリア（北部、中部、南部）それぞれの特色を活かした取組を行い、魅力を高める。南部の京橋エリアにおいては、ターゲットエリアを設定し、周辺の開発に合わせた取組を実施する。

桜ノ宮ビーチフェスティバルの参加者アンケートにおいて、参加して満足したと回答した割合

※「満足」「やや満足」と回答した参加者の割合

桜ノ宮ビーチフェスティバル

4　明日に誇れるまち

4-2　区の魅力創出

現状・課題

区が発信する情報の取得手段として「広報誌」の定着はみられるが、対象や発信する内容に応じて、ホームページやSNSの利用を高める必要がある。また、都島区の恵まれた自然環境、立地、歴史・文化などの資源や魅力向上の取組についての情報発信が必要である。

めざす状態

さまざまな媒体を通して、暮らしに関する情報や都島区の魅力を発信し、区内外に届けることで、区民や来街者等が関心を持ち、都市イメージの向上が図られている状態。

取組の方向性

多様な広報ツールを活用し、区内外に向け都島区に興味を持ってもらえるような情報発信やプロモーションを行う。

大阪市公式LINEアカウントにおいて、都島区を受信設定している登録者数

R6.3月末	1,960 人
R6.7月末	2,090 人
R7.3月末	2,573 人

※令和６年１月、都島区LINEアカウントを大阪市公式LINEアカウントへ移行

区将来ビジョン2030の実現にむけて

協働によるまちづくり・官民連携の推進

ビジョンに掲げる将来像の実現には、区民の皆様はもとより、地域団体、企業など、都島区のまちづくりに関わる方々との連携や協力が必要です。

官民連携の取組をさらに推進するため、区政の力だけでは十分な解決が困難な公共の課題を提示し民間との連携のきっかけとします。

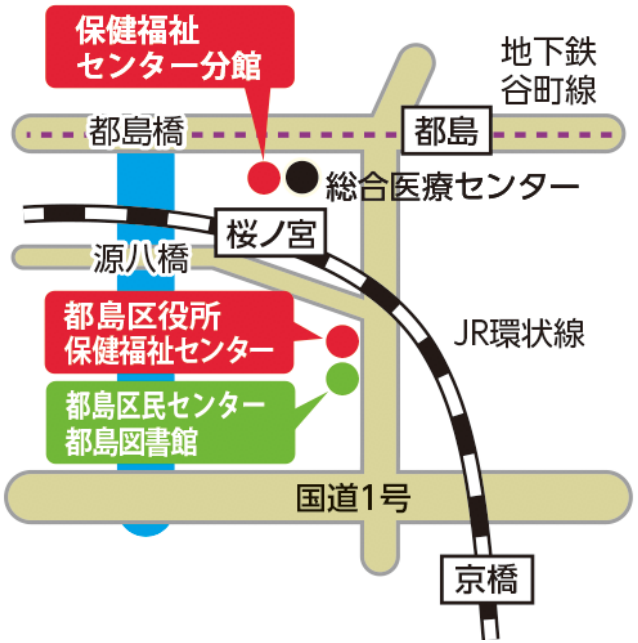
区役所は区民の皆様、地域団体、企業などの活動に協働し、協力・支援していくことを基本として、ビジョンの実現に取り組んでまいります。

DXの推進

DX（デジタルトランスフォーメーション）を進め、行政サービスのあり方や仕事のやり方を見直し、業務効率や労働生産性を高めるとともに、行政サービスそのものやその提供スタイルを進化させ、区民一人ひとりがそれぞれの幸せ（Well-being）を実感できる区政へと発展させてまいります。

区民サービスの向上

区民が抱えるさまざまな課題に対応する身近な総合行政の窓口としての区役所機能・窓口サービスの充実をはかります。区民の意見やニーズを的確に把握し、施策・事業を展開してまいります。



大阪市都島区役所 総務課（政策企画）

〒534-8501　大阪市都島区中野町2-16-20
電話　　：06-6882-9683
ファクス　：06-6882-9787
メール　　：tb0010@city.osaka.lg.jp